



四万十町昭和ふるさと交流センター 再整備基本構想

令和 7 年 2 月

目次

- (1) 現状把握・分析
- (2) 課題の抽出
- (3) 整備方針
- (4) 基本構想
- (5) 概算事業費と財源
- (6) 今後の事業スケジュール

(1) 現状把握・分析

本施設の再整備にあたり、以下の調査を行った。

- ア．現在の施設の耐震診断・老朽度調査と改修費用の算出
- イ．現在地での適正な建て替え整備規模調査
（周辺環境を活用した整備の概要計画）
- ウ．運営や利用状況の分析
- エ．利用者の施設に対する要望のとりまとめ
- オ．利用者のターゲット設定

ア．現在の施設の耐震診断・老朽度調査と改修費用の算出

建築士による目視での調査を行った。

全体考察

建物躯体は健全な印象を受けたが、外部の木部や擁壁に著しい劣化や損傷が見られた。

木造部分

事務所棟については、筋交いの量は十分だと考えられるが、地場産品展示棟の改修部分においては竣工時に設置されていた筋交いを撤去し、擁壁上部に柱を立てて支持しているため増築部分は撤去後復旧を行い、耐力要素の追加が必要であると考ええる。

外部木部

北側木製デッキ、南側持出し木製デッキ、木製展望デッキ、木製階段、いずれも常に雨水を受ける環境にあるため劣化が著しい。部材の交換も選択肢の一つではあるが、今後のメンテナンスも考慮し、木の現しにする場合は雨水が直接かからないような対応が必要だと考える。

外部擁壁、土間

擁壁と土間のひび割れについては、直接建物に危険を及ぼすものではないが、ひび割れ部分から雨水が浸透することで建物下部へ影響を及ぼす可能性があるため、補修と今後のひび割れを防ぐ対策が必要だと考える。

改修方針

建物重量の増加や、大きな間取りの変更を伴う改修の場合は詳しい調査と耐震診断を行う必要があると考える。建物重量が軽くなる方向での改修は、本建物が新耐震以降の建物であることを考慮すると、耐震性は確保できているものと考えられる場合もある。

イ. 現在地での適正な建て替え整備規模調査
(周辺環境を活用した整備の概要計画)

- 周辺の施設等の机上調査を行ったが、車で10～15分圏内においては飲食店や宿泊施設等がなく、利用においては不便が想定される。特に、飲食施設や食品等を購入する施設は周辺にはほぼないため、キャンプ場等で必要とされる物品の購入先の確保は検討が必要である。（机上調査の結果は次頁より掲載）
- アクティビティ需要が高まってきている中、ラフティング利用者はキャンプ場ではなく、宿泊施設の利用を希望しており、今後、滞在需要を伸ばしていくには、宿泊施設が必須である。

四万十町観光資源リサーチ

①観光地

四万十とおわ道の駅



▼概要

食堂、バイキング、スイーツ、アクティビティ、土産屋だけではなく道の駅として人気。毎週木曜日限定のランチバイキングでは、地元の郷土料理が堪能できる。

道の駅めぐり窪川



▼概要

海洋堂のフィギュアや、アイス、おにぎり屋など、色々な買い物を楽しむことができる道の駅。中でも、アグリの肉まんが人気商品として知られている。

道の駅「四万十大正」道の駅よって西土佐



▼概要

リニューアルした「ミュージックトイレ」、農林産物直販所が並ぶ道の駅。向かいにある轟公園は一休みするのに絶好のポイント。



▼概要

コンセプトは「てんねん」で「地」のものという意味。四万十市のてんねんにこだわっている道の駅。鮎の塩焼きが人気で、お土産や生鮮食品の品数も多い。

四万十町観光資源リサーチ

①観光地

川の駅 カヌー館



▼概要

「シメントバカンス」を合言葉に、四万十川の自然体験を提供している施設。主な体験メニューは、カヌー、ラフティング、SUP。キャンプ場での宿泊も可能。

海洋堂ホビー館四万十



▼概要

プラモデル、フィギュアの展示館。「へんぴなミュージアム」をコンセプトにしている、R3年度の来場者は2万3千人と人気を博している。

②アクティビティ

四万十カヌーと キャンプの里 かわらっこ



▼概要

四万十を満喫できるオートキャンプ場。併設するコミュニティセンターにはトイレやシャワー室、コインランドリーを備えている。カヌーやサップも体験可能。

四万十町観光資源リサーチ

②アクティビティ

四万十楽舎



▼概要

廃校舎を泊まって遊ぶ学校にリニューアル。
修学旅行受入、サークル合宿、会社研修、校舎貸切、テレビの撮影など幅広い客層を受け入れしている。

with RIVER



▼概要

若い夫婦が経営している、SUPとカヌーのアクティビティが体験できる施設。
川のアクティビティだけでなく、一棟貸しで宿泊施設としても利用可能。

ゆうべ亭



▼概要

サップアクティビティ、素泊り専用の宿、BBQ道具の無料レンタルなどを行っている。素泊り宿では、サーフトリップでの利用が多い。

リバーサップ そらみる四万十ベース



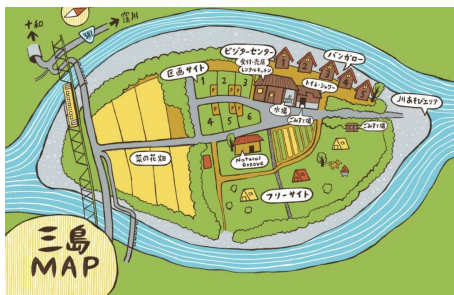
▼概要

四万十川でSUPの体験ができる施設。参加者のレベルに合わせた体験メニューが人気で、初心者～上級者までアクティビティを満喫することができる。

四万十町観光資源リサーチ

②アクティビティ

三島キャンプ場



▼概要

バンガロー5棟、フリーサイト、区画サイトからなるキャンプ場。サウナ体験や、川船こぎ、SUPなど、アクティビティの体験も可能な施設。

グッドリバー株式会社



▼概要

四国内で6つのフィールドを拠点としてアウトドアツアーを提供している。体験メニューがラフティング、SUP、キャニオニング、トレッキングなど豊富。

カヌーしまんとベース



▼概要

民宿とアクティビティを運営している施設。アクティビティ後にすぐ近くに泊まることができるのがポイント。犬と一緒にカヌー体験ができるプランもある。

オケラアドベンチャーズ 四万十



▼概要

1日1組限定の付きっきりツアーが人気。ホームページや予約ページも英語で表記されており、インバウンド対応が可能なアクティビティ体験施設。

四万十町観光資源リサーチ

④店舗調査

喫茶PINOKO



▼概要

オムライスが看板商品の喫茶店。場所はふるさとセンターのほぼ隣。

古民家カフェ 半平



▼概要

明治34年に建築された建物をリノベーションしカフェとして営業している。

四万十屋



▼概要

四万十川を眺めながら食べることができる。天然うなぎのうな重が人気。

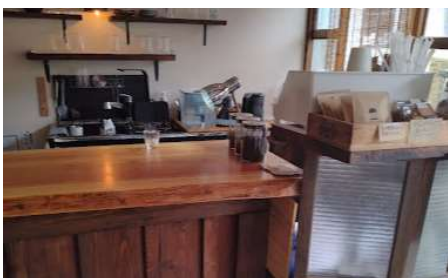
レストハウス 古都



▼概要

昭和レトロなレストラン。人気メニューは生姜焼きとオムライス。

気ままに珈琲



▼概要

珈琲専門店。テイクアウトが主だが、イートインも数名なら可能。

いちもん家



▼概要

地元料理が食べられるファミリーレストラン。物産館サンリバー四万十内に位置。

とおわ食堂



▼概要

四万十自慢の食材を使った季節のメニューを食べられる。

みたに食堂



▼概要

魚屋さんと併設する食堂ならではの、魚屋さんの魚をその場で食べられる。10

四万十町観光資源リサーチ

④店舗調査

呑んで家



▼概要

新鮮な魚料理がリーズナブルな価格で食べることができる。

居酒屋台北



▼概要

中華料理居酒屋。おかみさんの人柄とどの料理も美味しいと評判。

やまの台所 みんな家



▼概要

四万十川天然の鮎や鰻も味わえるので、四万十食材を味わいたい人必見。

いちかわ



▼概要

お好み焼き、たこ焼き、焼きそば屋さん。夜はアルコール提供も行っている。

居酒屋一福



▼概要

夕方4時半から営業している居酒屋。1000円で飲み物と小鉢3個のセットが人気。

こいちご飯



▼概要

天然の鮎やウナギが人気の居酒屋。

居酒屋喜八



▼概要

食べログで人気のお店。鰹のタタキと韮が人気。

伊藤商店



▼概要

食品のほか、日用雑貨やお菓子、アイス、地元で取れた新鮮野菜を販売している。

四万十町観光資源リサーチ

④店舗調査

ライフショップ 松下



▼概要

タイ出身のシェフがつくる
タイ料理は本場の味として
人気。

リバーサイド みち



▼概要

お好み焼き～定食などメ
ニューが豊富。四万十川の
天然鮎も時期によって提供。

⑤景勝地

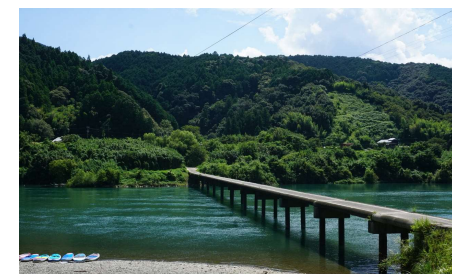
佐田沈下橋



▼概要

四万十川最下流で最長の沈
下橋。昭和47年建設、全
長：291.6m、幅員：4.2m

三里沈下橋



▼概要

夕日に映し出された風が絶
景。昭和38年建設、全長：
145.8m、幅員：3.3m

岩間沈下橋



▼概要

ポスターやテレビに登場す
るのがこの沈下橋。昭和41
年、全長120m、幅員3.5m

高瀬沈下橋



▼概要

四万十で3番目に長い沈下橋。
昭和48年、全長：232.3m、
幅員：3.4m

四万十町観光資源リサーチ

⑤景勝地

勝間沈下橋



▼概要

釣りバカ日記14の撮影場所としても有名。昭和34年、全長：171.4m、幅員：4.4m

第一三島沈下橋



▼概要

中洲で左右に分流する四万十川は急流で、古来より往来の難所だったそう。

第二三島沈下橋



▼概要

中洲で左右に分流する四万十川は急流で、古来より往来の難所だったそう。

日屋内沈下橋



▼概要

曲線を多用したデザインがユニークな沈下橋。昭和30年建設、全長241.3m、幅員3.6m

長生沈下橋



▼概要

昭和35年建設、全長120m、幅員3.1m

四万十町観光資源リサーチ

⑥宿泊施設調査

十和温泉



- ▼住所
四万十町十和川口 3
9 2-1
- ▼料金設定
- ・ 1泊2食16,500円～
(鮎、うなぎなど)
 - ・ 素泊まり7,150円

ライダーズイン 四万十



- ▼住所
高岡郡四万十町井崎
4-1
- ▼料金設定
- ・ 1泊3,300円
 - ・ 布団500円
 - ・ 寝袋100円

かっぱ バックパッカーズ



- ▼住所
高岡郡四万十町十川
223-1
- ▼料金設定
- ・ ドミトリー
3,000円～
 - ・ 個室貸し切り
4,000円～

一棟貸しの宿 Hinoki



- ▼住所
高岡郡四万十町小野
367
- ▼概要
- 無印良品がリノベーションした物件。
2024年9/24にオープンしたばかり。

周辺立地分析

ふるさと交流センターは四万十町、四万十市の中心部へのアクセスが良い。アクティビティ体験ができることは立地上の強み。

- ・ふるさと交流センターは、**四万十町と四万十市の中心地の中間地点に位置**している。
- ・ふるさと交流センターの近くにはアクティビティ、温泉、宿泊施設、周辺店舗が集積している。
- ・四万十市は沈下橋が多いため、景勝地、温泉が四万十市に密集している。
- ・アクティビティもほとんどが四万十市に集中しており、**四万十町でアクティビティ体験ができるのは、交流センターと三島キャンプ場のみ。**
- ・一方で観光施設は四万十町に多く点在している。



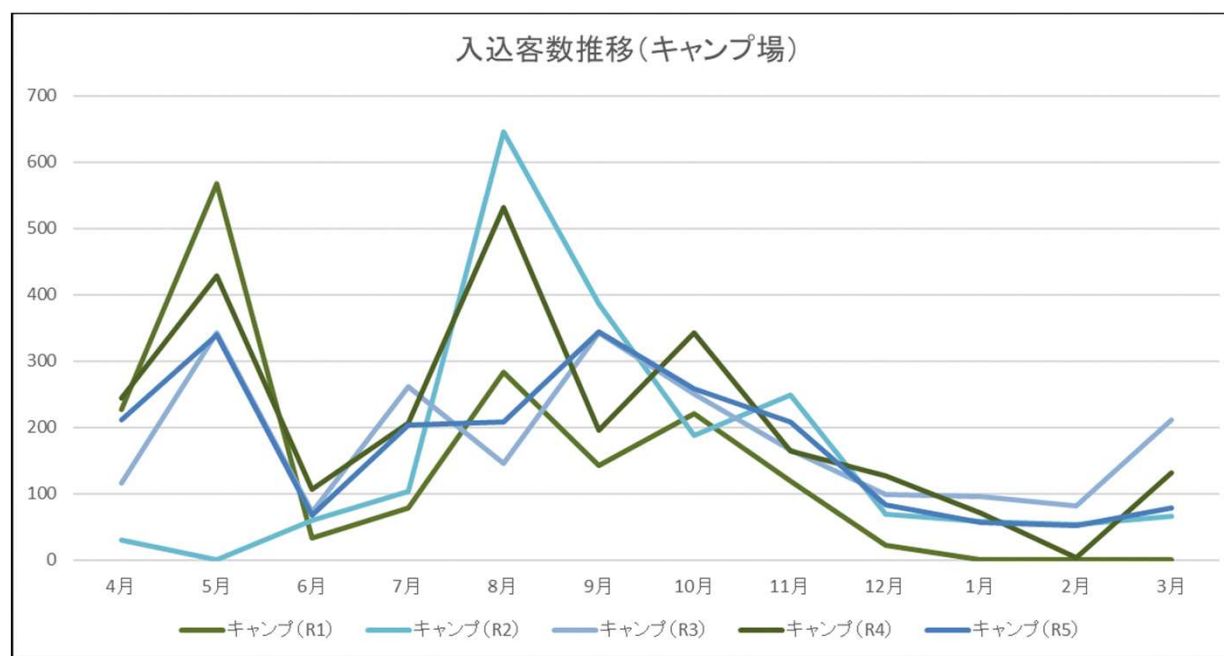
ウ. 運営や利用状況の分析

全体傾向

コロナ禍でのアウトドア需要の高まりからR4年度が利用のピークとなっている。特需以外の年では年間2,900～3,000人前後の入込数となっている。レンタサイクル、カヤックの利用者は過去5年間の推移を見ても年間100人前後と多くなく、あまり変動も見られない。季節傾向としては、5、7～11月頃までの利用が全体の8割を占めており、アクティビティにおいては11月以降の冬場においてはほぼ利用者はいない。

キャンプ場

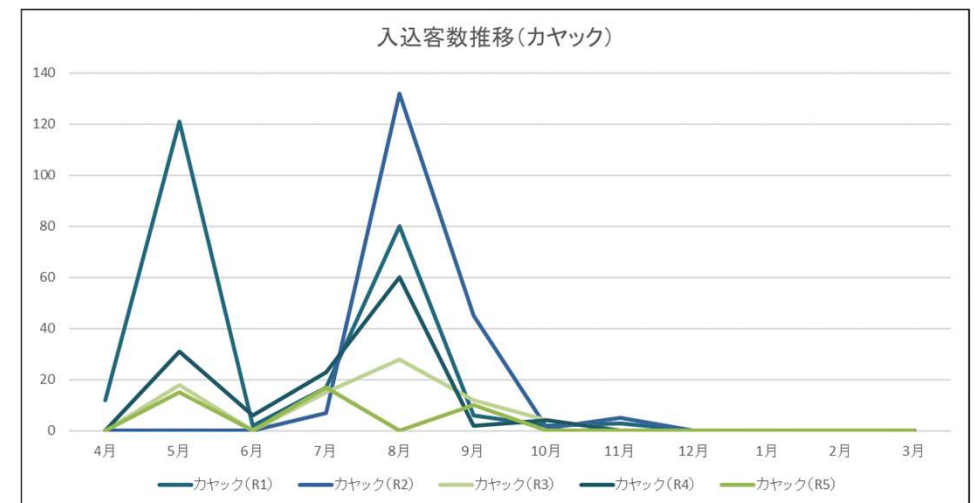
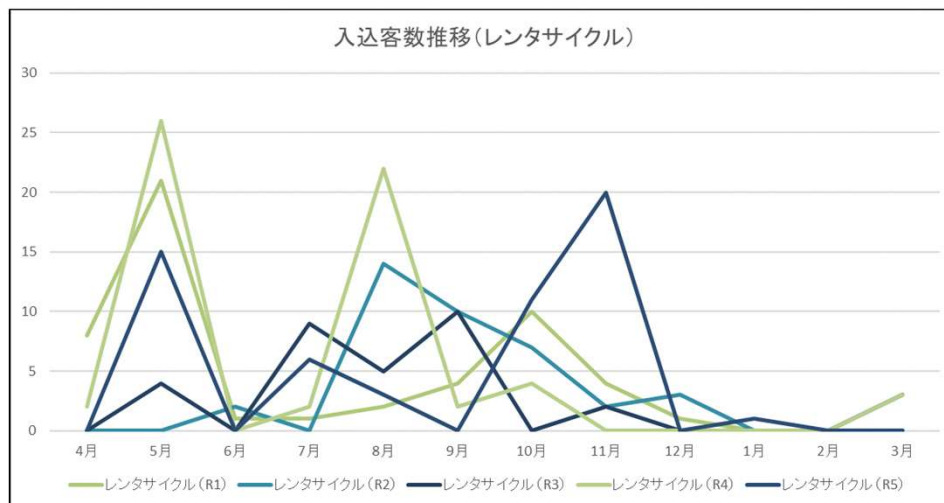
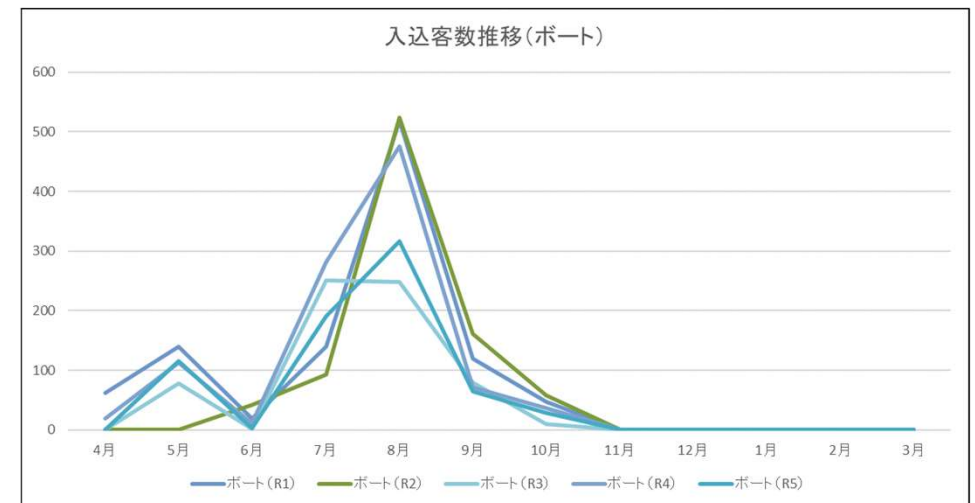
コロナ禍でのアウトドア需要の高まりからR4年度が利用のピークとなり、大幅に利用者が増加している。客層は5月・7～11月頃までは気候的にも過ごしやすく、長期休みも多いため、家族層の利用が増える。冬場はファミリー層の利用が減り、ソロ客の利用が増える。



ウ. 運営や利用状況の分析

アクティビティ

ボート、カヤック、レンタサイクルの3種類を提供している。
コロナ禍でのアウトドア需要の高まりからR4年度が利用のピークとなっている。
ラフティング等は需要が高く、観光客の利用も多いため、観光需要取り込みには必須であるがキャンプ場では宿泊しない傾向がある。
レンタサイクルはガイド人材不足の関係もあり、利用人数は少ないものの、
水上アクティビティとは異なり、一年を通じて提供しやすいアクティビティであり、今後増加の余地はある。



エ. 利用者の施設に対する要望のとりまとめ

施設の管理者にヒアリングを行った。

運営状況

周辺では、リバーフェスタや四万十川祭りが開催されている。
昭和地区側は人員不足が顕著に感じる。

施設・体験の利用状況

R3年頃からコロナ特需でキャンパーが増加し、R5年頃がピーク。
アクティビティについては、レンタサイクルやラフティング、SUPがある。
→レンタサイクルは利用者はほぼいないため、将来的に不要かもしれない。
→ラフティングは稼ぎ頭であり、売上確保できている。一方、地域の漁協との口約束があり、午前午後で4艇のみと約束があるため、積極的な事業拡大は難しいと思っている。
また、ラフティング客はキャンプはしないので、キャンプ場の宿泊数増加にはつながりづらい。キャンプ以外の手軽な宿泊需要（バンガロー等）があるのではないか。
→SUPは漁協関係なく実施が可能だが、レクチャー人材不足等で積極的には実施していない。
→今後はBBQの要望があり、取り組み意向はある。実施の場合は日陰等が必要。
利用客についてはファミリー利用も多いが、安価なことからソロ利用も多い。

施設に関する評判

ラフティングについては安全に楽しめるため、四国内でも2番目くらいに楽しめるのではないかと。
施設の良い評価としては、芝生の良さ・ロケーションの良さ（川がすぐ横にある）、時間制限がゆったりしていること、フリーサイトであること、良心的な値段であること。
悪い評価としては、施設の老朽化（特にトイレ、シャワー室）

エ. 利用者の施設に対する要望のとりまとめ

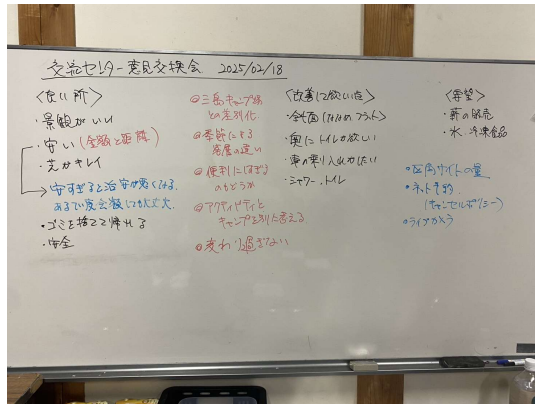
施設の管理者にヒアリングを行った。

その他

- ・地域住民にとっては、昭和地区の住民にとっても、盛り上がりを感じられる取り組みが良いのではないか
 - ・今後、施設管理者として、取り組んでみたいことは以下の通り
- キャンプ場以外の簡易な宿泊施設がないため、観光客の取り込みのために宿を運営したい
 - 将来的にインバウンド向けの整備を行いたい
 - 受付とカフェをセットで実施したい
 - コインランドリーの運営を行いたい（採算面は課題）
 - キャンプ場宿泊者向けの自動販売機を設置したい（氷、飲み物、食材等）

エ. 利用者の施設に対する要望のとりまとめ
施設利用者に座談会形式でヒアリングを行った。

○当日の座談会の様子



○当日の参加者
8名

エ. 利用者の施設に対する要望のとりまとめ

施設利用者に座談会形式でヒアリングを行った。

①当施設の良い評判・悪い評判

- ・ 価格が安い
 - 安すぎるとマナーの悪い客層が増えるため、丁度よい価格設定。
 - 価格で治安を買っている感覚。
 - 紹介しやすい価格。
- ・ 一人当たりが使える面積が広い
- ・ 子供が走り回っても安心
- ・ 芝が広い
- ・ ゴミを回収してくれる
- ・ 景観が良い（高知にはあまり景観が良いキャンプ場はない）
- ・ 管理人の人柄がよい

②具体的な改善要望

- ・ 斜面が多い
- ・ 車を乗り入れるスペースがない
- ・ 仕方がないが風が強い
- ・ シャワー室を綺麗にしてほしい（夏は虫が出る、冬は寒すぎる）
- ・ 西側にも炊事場とトイレが欲しい
- ・ トイレを洋式にしてほしい

エ. 利用者の施設に対する要望のとりまとめ

③図面案・計画に対する意見

<休憩コーナー>

- ・休憩コーナーに乾燥機が欲しい（一般用のもので可）
- ・休憩コーナーの畳が良い

<サービス>

- ・薪の販売があると良い（針葉樹、広葉樹両方）
- ・夏場にかき氷の販売をやってほしい
- ・氷やアイスクリームの販売をしてほしい
- ・自動販売機（食品系）を増やしてほしい

<サイト>

- ・利用料は上げてでも1,200～1,300円まで（ゴミ処理含めて）
→ごみ袋を購入制にしてはどうか
- ・予約サイトには電源が欲しい（電源つきサイトは別料金形態とする）
- ・ライブカメラを付けて欲しい
- ・酔っ払いが予約サイトを通るのを対処してほしい
（安心面で不安になるので配慮した動線にしてほしい）
- ・川沿いは8～10サイト設置できるようにしてほしい（紐・釘、石灰ライン等で目印）

<その他>

- ・春夏はアクティビティ、秋冬はキャンプ場メインに発信した方が稼げるのではないか
- ・十和温泉をもっと利用者に知ってほしい
- ・駐車場のコンクリート箇所にラインを引いてほしい。（車数を止められるようになる）
- ・WEB予約でキャンセル料を収集できるようにしてはどうか（天候不良時は要検討）
- ・あまり変わりすぎないほうがいい
- ・インバウンド層（欧米系）が増えてきているがマナーが悪く問題になっている
（マナー、ルールの周知が必要）

オ. 利用者のターゲット設定

ターゲット設定を実施するにあたり、改修後の施設のコンセプト・戦略戦術を以下の通り設定した。

コンセプト

四万十川に隣接する好立地のキャンプ場として、キャンプ愛好家に支持されるキャンプ場であることはもちろん、四万十川の自然を活かしたラフティングやSUP、サイクリングといったアクティビティの拠点であり、四万十町の西の玄関口となるビジターセンターとして地域観光の中心となる施設。

戦略

- ① キャンプ場のハード＆ソフトを見直して利便性を向上し、利用者増を実現する。
- ② 季節ごとにメイン顧客を入れ替えることで1年を通して施設の強みを活かした集客を行う。
→春夏はアクティビティメインで集客。子ども連れのファミリー層・友人グループ層
→秋冬はキャンプ場メインで集客。ソロキャンパー等のキャンプマニア層へ発信
- ③ 地域における副業・複業を活性化し、人手の確保と新たなビジネス創出を実現する。
- ④ キャンプ＋アクティビティ＋カフェによる多目的化、複合化でより多くの来客を確保。

戦術

- ① トイレやシャワーのリニューアル、カフェコーナーの新設、ネット予約の強化やキャッシュレス化、繁忙期の予約区画の実施。
- ② 春・夏・初秋：ファミリーキャンパー＋アクティビティ利用者、晩秋・冬：ソロキャンパーをメイン顧客として営業する。
- ③ キャンプ場の運営＋各種アクティビティのガイドや周辺の空き家を活用した分散型ホテルの運営による副業・複業の実現。
- ④ キャンプ客でも参加しやすいSUPガイドの実施やキャンプをしないラフティング客向けのカフェ営業など、＋αのサービスで収益増を目指す。

コンセプトに記載の通り、四万十川すぐの好立地・ロケーションを活かした、キャンプとアクティビティをインクルーシブで体験できるビジターセンターとして、施設の改修と必要な機能の設置を行う。



(2) 課題の抽出

課題としては以下の通り想定

項目	内容と課題
整備の方向性	・建物重量が軽くなる方向での改修は、本建物が新耐震以降の建物であることを考慮すると、耐震性は確保できているものと考えられるのではないか。 ※建物重量の増加や、大きな間取りの変更を伴う改修の場合は詳しい調査と耐震診断を行う必要がある ※今回のレポートは目視調査による建物状況の報告であり、建物の耐震性・安全性を保証するものではない
周辺環境の状況	・観光の基本要素である、宿泊施設・飲食施設・物品購入施設は近隣にはなく、利用者にとっては不便であり、不満の一つにもなっている。 →施設内もしくは近隣での対策が必要ではないか。
運営・利用状況等	・コロナ禍をピークに利用者は微減傾向にある。 ・キャンプ場自体は川近くのロケーションの良さは好評であるものの、トイレやシャワー室等の施設の老朽化は課題である。 →不満につながる施設の問題（水回り、飲食機能等）は対策が必要。 →繁忙期の機会損失対策で、予約サイトの導入やレベニュー単価の導入等の検討は必要でないか。
地域との連携	・地域住民の感情への配慮が必要（地域が盛り上がっていると感じられるようにぎわいづくりや、地域向けのイベント等） ・道路の設置等交通インフラの改善は必要ではないか。
許認可関係	・漁協との連携は引き続き良好な関係を続けていく必要がある。 ・将来的に、宿の展開も行う場合は営業許可の取得等が必要

（３）整備方針

ふるさと交流センターのリニューアル整備方針

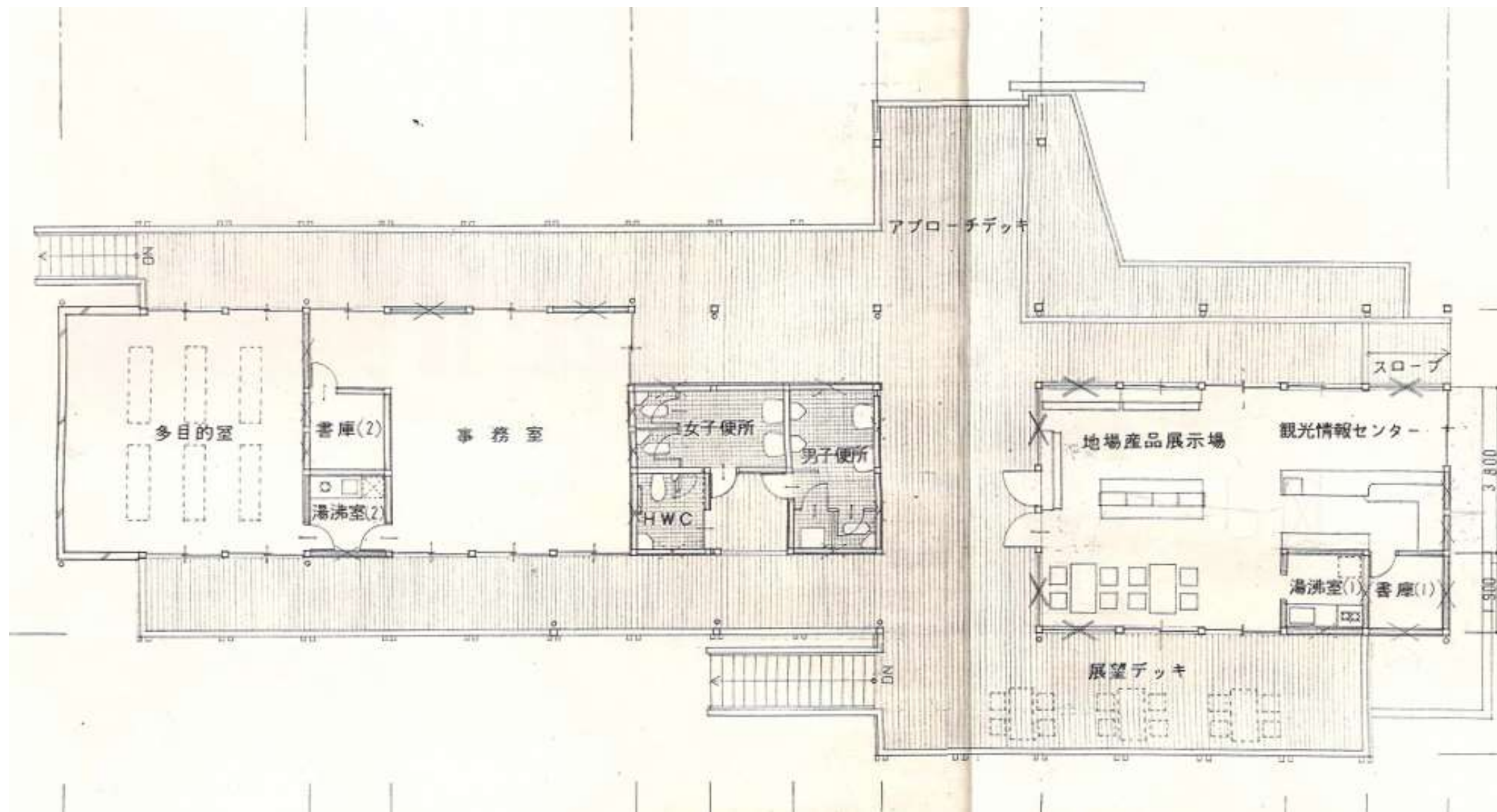
■ 課題点の克服

- ・ トイレ、シャワーの老朽化 → 新規に交換
- ・ 1階の浸水対策 → 2階にトイレ・シャワーを移設
- ・ デッドスペース（会議室） → ガイドデスクやイートインに改装
- ・ ゴミ庫の管理・マナー違反 → 本棟に設置
- ・ 飲食店不足 → テイクアウトのコーヒースタンドを新設
- ・ 日陰不足 → デッキテラスを延長＋ルーフシェードを設置
- ・ イベントの活性化 → 倉庫増設＋BBQやアウトドアダイニング対応
- ・ その他 → バリアフリー対応

■ 新たな活用方法の検討

- ・ 体験ガイドの活性化 → ガイドデスクを設置（SUPも開始）
- ・ 周遊観光の促進 → 本施設スタートのツアーを開催（自転車、まちあるき）
- ・ 宿泊施設の増加 → 空き家を活用した分散型ホテルのフロント化
- ・ インバウンドの集客 → 英語対応強化、連泊対応（キャンプ＋民泊など）²⁶

現状



段差を無くし、フラットにデッキで周回できるようにする

リニューアル案

【事務所棟】

- ①キャンプ場受付
- ②キャンプ場事務所
- ③売店（薪など）
- ③ガイドデスク
- ④テイクアウト（コーヒースタンド）
- ⑤イートイン兼休憩スペース

壁打ち抜きで一体化

イートイン兼休憩スペース

受付+事務所+テイクアウト用キッチン

【トイレ棟】

男：大1小2
女：2
身障者用：1

【シャワー棟】

- ①シャワー室（男2、女2）
- ②トイレ（男1、女1）
- ③更衣室（男2、女2）
- ④休憩室（共用）

テイクアウトコーナー受渡口

ガイドデスク

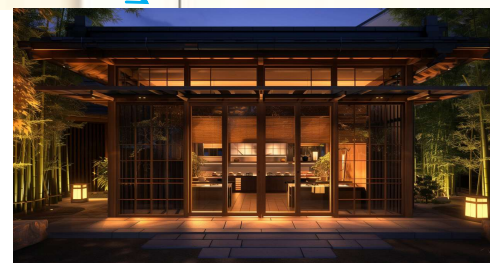
【デッキテラス】

- ・飲食可（BBQセットの販売も検討）
- ・アウトドアダイニングにも対応
- ・開閉式のルーフシェードを設置

木製デッキは全て張り替え

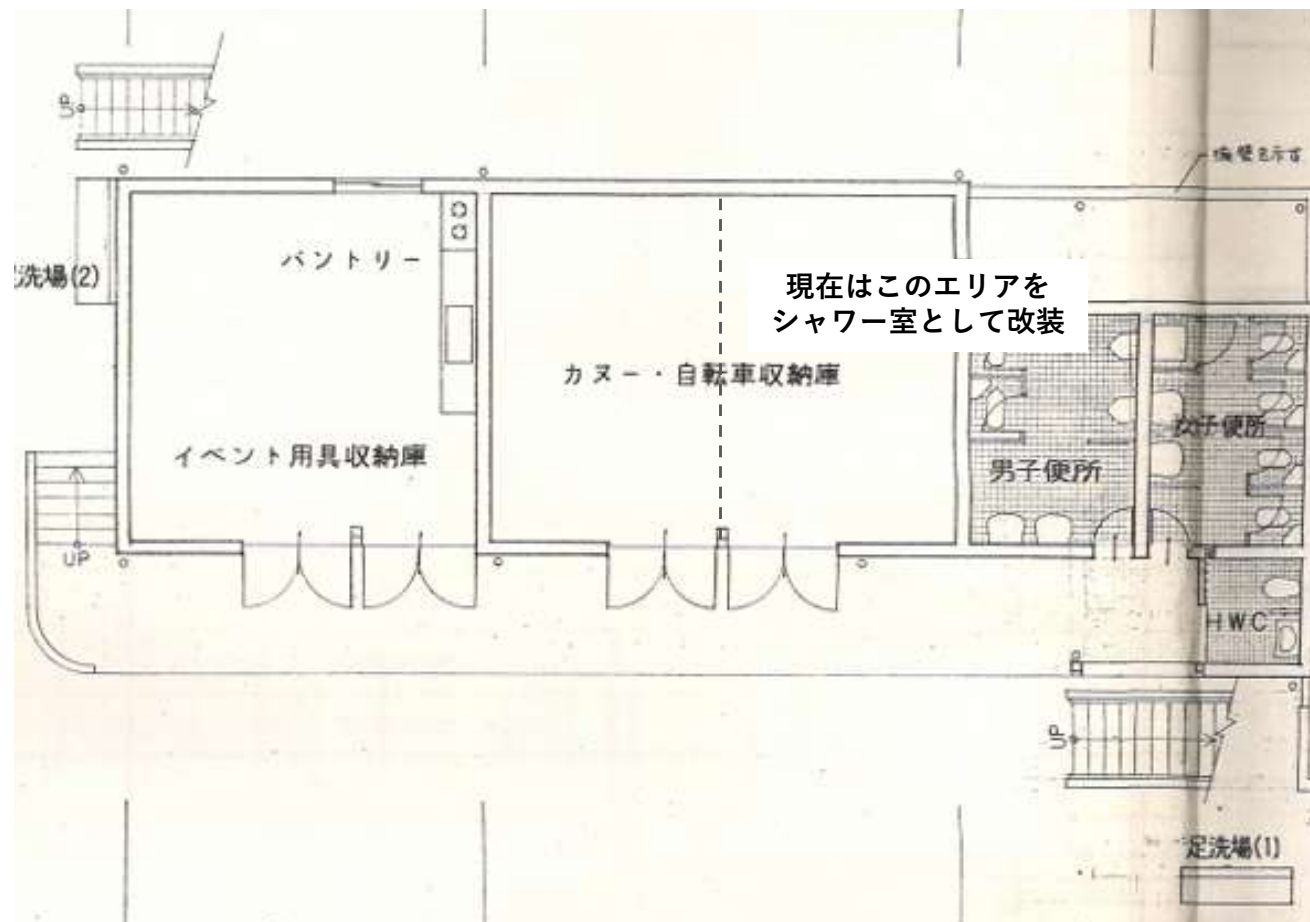


※デッキテラスイメージ



南北のファサードはガラスで開放的に・・・

現 状



リニューアル案

イベント（アウト
ドアダイニングな
ど）用のキッチン

【倉庫①】

メンテナンスやイ
ベント用の道具を
保管

【倉庫②】

カメラ、ラフティン
グ、SUPなど体験用
の道具を保管

【倉庫③】

ゴミ庫をここに
移動（夏対策の
冷房付き）

身障者用トイレは
バリアフリーの観
点から1階に1つは
残す？

【デッキテラス下】

- ・体験メニューの待機場所
- ・アウトドアダイニングの会場
- ・猛暑時の避難場所
- ・屋外イートインとしても利用可

炊事場は少し拡張して
お湯が出るように…



※アウトドイベントイメージ



※アウトドアダイニングイメージ



Nat'l Rte 381

【ふるさと交流センター】
四万十キャンプ・...

四万十川東部
漁業協同組合

てゆう十和組 NPO
法人地域支援の会...

リバーサイドみち

伊藤商店

Nat'l Rte 381

予約サイトを新設

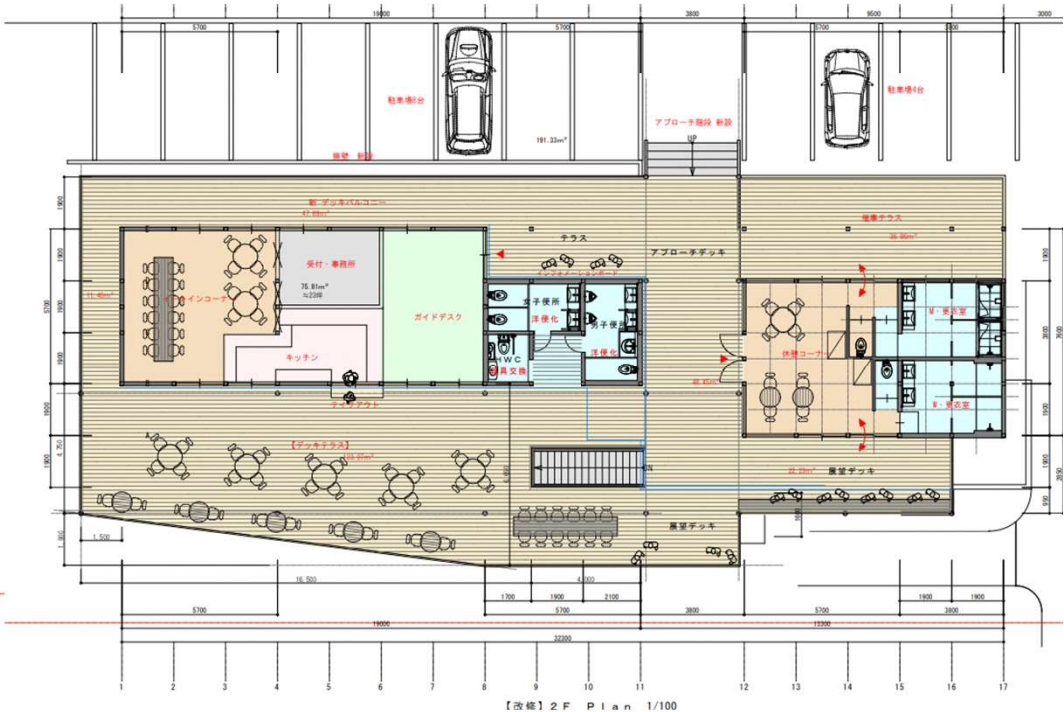
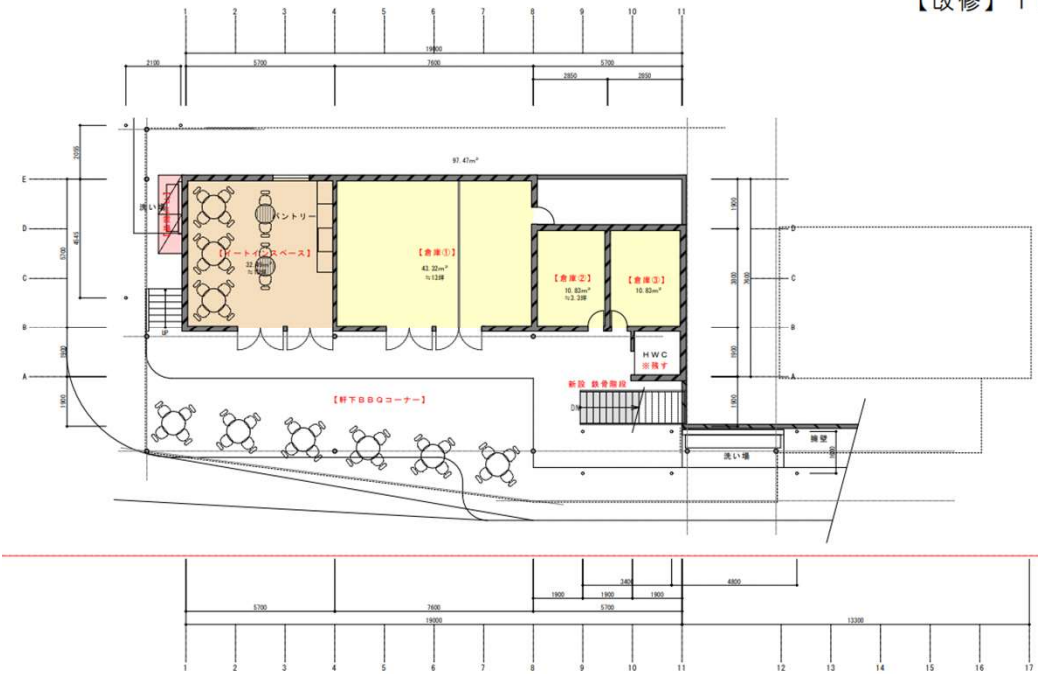
四万十川の景観を遮らない
ように荷下ろしできる周回
道路（一方通行）を作成



予約サイト

リニューアル案（松）：今の場所がかさ上げを行い新築

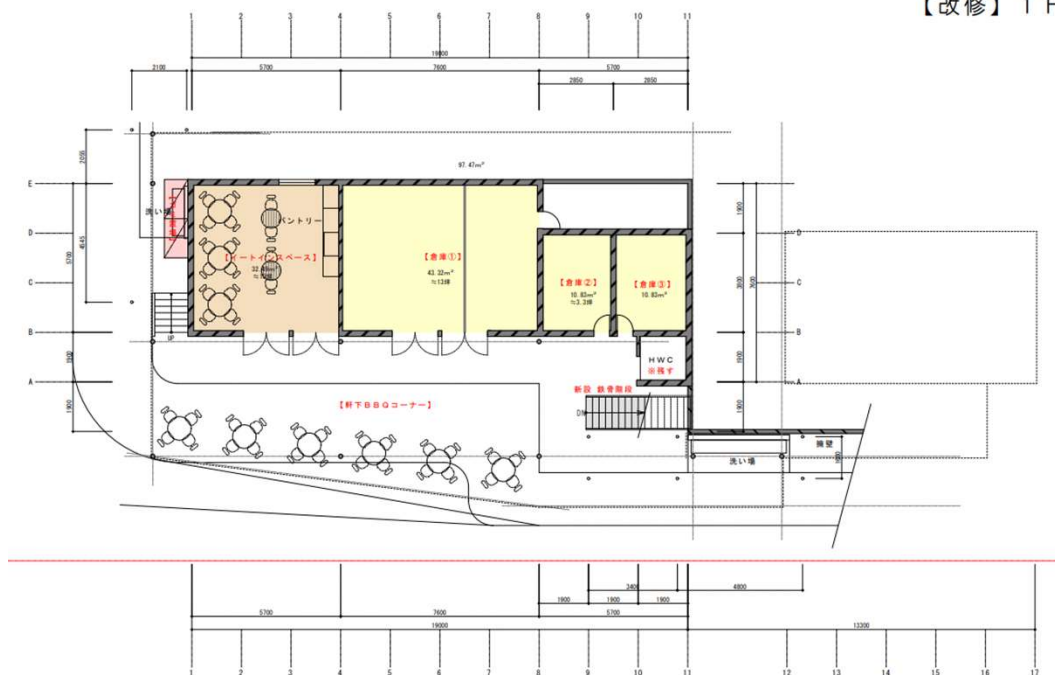
【改修】1F



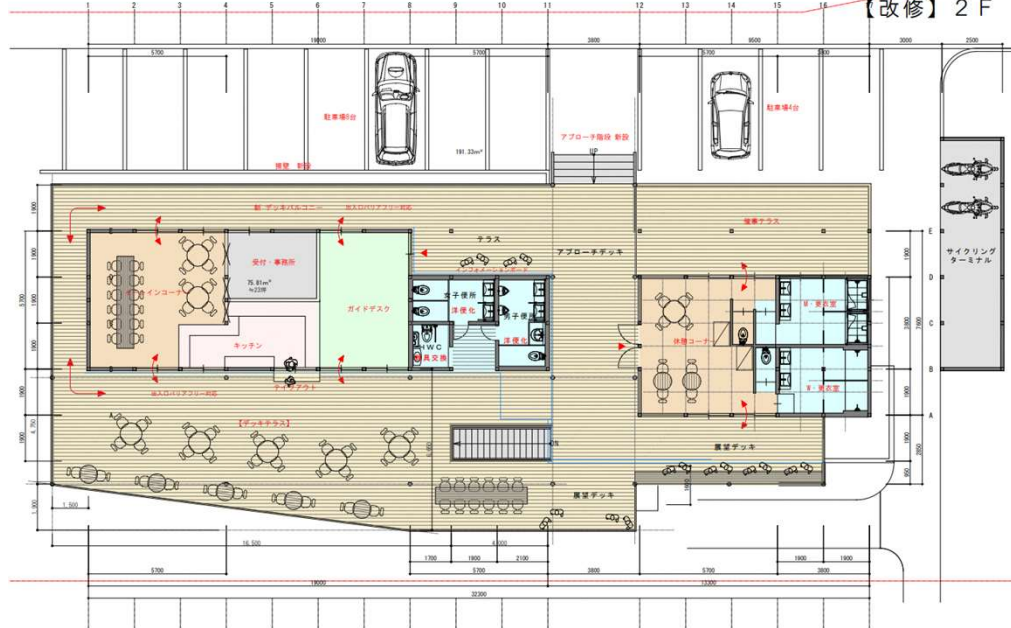
A	直接工事費		1.00	式	146,750,000	
B	共通仮設費		1.00	式	6,864,920	4.68%
	純工事費				153,614,920	
C	現場管理費		1.00	式	11,234,655	7.31%
	工事原価				164,849,575	
D	一般管理費等		1.00	式	20,540,425	12.46%
	工事価格				185,390,000	
E	消費税等相当額	10.0%	1.00	式	18,539,000	
	設計金額				203,929,000	
	消費税等相当額を除く請負対象金額	工事価格より千円未満切り捨て			185,390,000	
	消費税等相当額	10.0%	1.00	式	18,539,000	
	請負対象金額				203,929,000	

リニューアル案（竹）：トイレやシャワー室・浄化槽等を二階へ

【改修】1 F

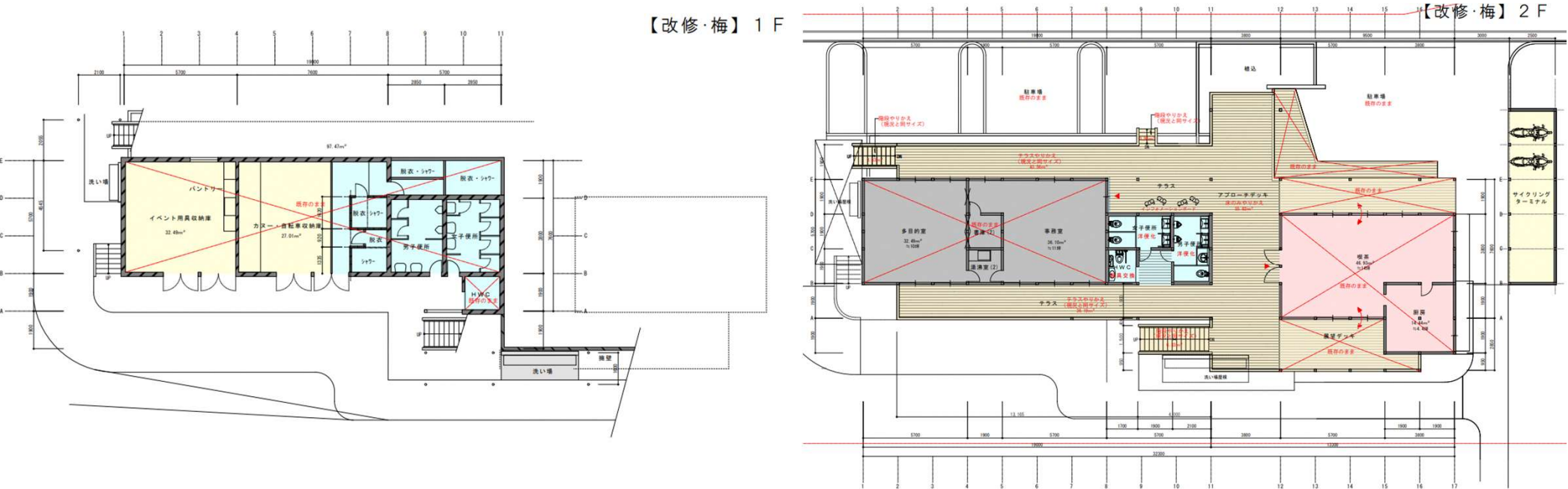


【改修】2 F



A	直接工事費		1.00	式	68,000,000	
B	共通仮設費		1.00	式	4,877,937	7.17%
	純工事費				72,877,937	
C	現場管理費		1.00	式	7,047,865	9.67%
	工事原価				79,925,802	
D	一般管理費等		1.00	式	10,754,198	13.46%
	工事価格				90,680,000	
E	消費税等相当額	10.0%	1.00	式	9,068,000	
	設計金額				99,748,000	
	消費税等相当額を除く請負対象金額	工事価格より千円未満切り捨て			90,680,000	
	消費税等相当額	10.0%	1.00	式	9,068,000	
	請負対象金額				99,748,000	

リニューアル案（梅）：改修は最低限（２階トイレのみ）



A	直接工事費		1.00	式	35,565,000	
B	共通仮設費		1.00	式	3,891,211	10.94%
	純工事費				39,456,211	
C	現場管理費		1.00	式	4,587,667	11.63%
	工事原価				44,043,878	
D	一般管理費等		1.00	式	6,286,122	14.27%
	工事価格				50,330,000	
E	消費税等相当額	10.0%	1.00	式	5,033,000	
	設計金額				55,363,000	
	消費税等相当額を除く請負対象金額	工事価格より千円未満切り捨て			50,330,000	
	消費税等相当額	10.0%	1.00	式	5,033,000	
	請負対象金額				55,363,000	

整備方針の比較

パターン		ランニングコスト	浸水対策	浸水対策	倉庫確保	費用	ガイドデスク	キャンプ場利便性	管理のしやすさ	工事期間	実現性	費用対効果	防災	備考	計	
3位	新築	(松) 今の場所がかさ上げを行い新築	○	○		○	×	○	○	△	×	△ 高くなるので階段が必要となり不便	△	◎	擁壁工事必要	12点
	リノベーション	(竹) トイレやシャワー室・浄化槽等を二階へ	△	△	2階 浸水あり 2階 へトイレ・シャワー移動	○	○	○	○	◎	○	○	◎	△ 数年に一回規模の台風だと×		21点
2位		改修は最低限(2階トイレのみ)	×	×	1階 現状利用 2階トイレのみ改修	△	◎	○	○	×	◎	×	○	×	浸水リスク大	13点

◎ = 3点

○ = 2点

△ = 1点

× = 0点

(4) 基本構想

各項目	実施方法・手段
a.構想の全体像・将来像	現施設を、四万十町のアドベンチャーツーリズムの拠点となる「アウトドアビジターセンター四万十」として、四万十町内のアクティビティやイベント等を実施する場所として整備計画及び事業計画を策定します。
b.事業目的	周辺環境・地域と連携し、四万十町の体験型観光の魅力向上により、交流人口の増加・消費拡大を図るため。
c.現状分析	施設の耐震診断：本建物が新耐震以降の建物であることを考慮すると、耐震性は確保できているものと考えられる。 施設の運営・利用状況：コロナ禍をピークに利用者は微減傾向にある。キャンプ場自体は川近くのロケーションの良さは好評であるものの、トイレやシャワー室等の施設の老朽化は課題である。 周辺競合調査：四万十町でアクティビティ体験ができるのは、ふるさと交流センターと三島キャンプ場のみ 利用者分析：21～22Pに記載
d.課題設定	25Pに記載
e.事業理念（コンセプト）	四万十川に隣接する好立地のキャンプ場として、キャンプ愛好家に支持されるキャンプ場であることはもちろん、四万十川の自然を活かしたラフティングやSUP、サイクリングといったアクティビティの拠点であり、四万十町の西の玄関口となるビジターセンターとして地域観光の中心となる施設。
f.ターゲット	23Pに記載
g.事業内容	ふるさと交流センターをキャンプとアクティビティが体験できる地域観光の中心となる拠点とするためにリニューアルを行う。
h.スケジュール	53Pに記載

収支計画において、リニューアル案3パターンに合わせて、試算を行った。
ここではリニューアル案（竹）の収支計画について簡単に収支条件を記載する。

■諸条件

サイト数		40	サイト
サイト当たり定員		6	名
販売単価	大人	1,000	円/人泊
	子供	500	円/人泊
予約販売単価		5,000	円/泊

■営業時間		
始業	9:00	
終業	17:00	
休憩	1.0h	
労務時間	8.0h	

■営業日数	※2023年ベース												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
週6営業													
平日	15	17	17	16	15	18	15	18	16	16	15	17	195
土日祝	11	7	9	8	9	6	11	9	10	10	10	10	110
予約販売日（特日）		2		2	2	2							8
営業日数	26	26	26	26	26	26	26	27	26	26	25	27	313
定休日	4	5	4	5	5	4	5	3	5	5	3	4	52
合計	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365

■キャンプサイト：月別に稼働率を設定し、繁忙期は予約サイトの導入及び値上げを実施した上で売上の試算を行っている。

■サイト売上													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
サイト稼働率													
平日	10.1%	16.3%	3.2%	9.8%	10.0%	16.5%	12.4%	10.0%	4.0%	2.7%	2.5%	3.8%	8.4%
土日祝	10.1%	16.3%	3.2%	9.8%	10.0%	16.5%	12.4%	10.0%	4.0%	2.7%	2.5%	3.8%	7.9%
予約販売日（特日）	10.1%	16.3%	3.2%	9.8%	10.0%	16.5%	12.4%	10.0%	4.0%	2.7%	2.5%	3.8%	12.8%
合計	10.0%	16.2%	3.1%	9.6%	10.0%	16.3%	12.3%	10.0%	3.9%	2.6%	2.5%	3.7%	8.4%
サイト販売数（小数点以下切捨）													
平日	60	110	21	62	60	118	74	72	25	17	15	25	659
土日祝	44	45	11	31	36	39	54	36	16	10	10	15	347
予約販売日（特日）	0	13	0	7	8	13	0	0	0	0	0	0	41
合計	104	168	32	100	104	170	128	108	41	27	25	40	1,047
定員稼働率（実質）													
平日	33.0%	33.0%	33.0%	33.0%	33.0%	33.0%	33.0%	33.0%	33.0%	33.0%	33.0%	33.0%	2.8%
土日祝	33.0%	33.0%	33.0%	33.0%	33.0%	33.0%	33.0%	33.0%	33.0%	33.0%	33.0%	33.0%	2.6%
予約販売日（特日）	33.0%	33.0%	33.0%	33.0%	33.0%	33.0%	33.0%	33.0%	33.0%	33.0%	33.0%	33.0%	4.1%
合計	3.3%	5.3%	1.0%	3.1%	3.3%	5.4%	4.0%	3.3%	1.3%	0.8%	0.8%	1.2%	2.7%
販売客数（小数点以下切捨）													
平日	118	217	41	122	118	233	146	142	49	33	29	49	1,297
土日祝	87	89	21	61	71	77	106	71	31	19	19	29	681
予約販売日（特日）	0	25	0	13	15	25	0	0	0	0	0	0	78
合計	205	331	62	196	204	335	252	213	80	52	48	78	2,056
販売単価値上率（※レベニュー実施）													
平日	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
土日祝	100%	100%	100%	100%	150%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
予約販売日（特日）	100%	100%	100%	100%	150%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
サイト売上													
平日	94,400	173,600	32,800	97,600	94,400	186,400	116,800	113,600	39,200	26,400	23,200	39,200	1,037,600
土日祝	69,600	71,200	16,800	48,800	85,200	61,600	84,800	56,800	24,800	15,200	15,200	23,200	573,200
予約販売日（特日）	0	20,000	0	10,400	18,000	20,000	0	0	0	0	0	0	68,400
合計	164,000	264,800	49,600	156,800	197,600	268,000	201,600	170,400	64,000	41,600	38,400	62,400	1,679,200

■アクティビティ：ラフティング、カヌー、自転車ツアー、SUPの4つを実施。

■ラフティング売上

販売単価	大人	6,000円/人
	子供	4,000円/人
1日当たり販売可能組数		8組
1組当たり人数		4名
ガイド料		7,000円/組

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
販売可能組数													
合計		208	208	208	208	208	208						1,248
組稼働率													
合計		20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%						20.0%
販売組数													
合計		42	42	42	42	42	42						250
販売客数													
合計		166	166	166	166	166	166						998
ラフティング売上													
合計		842,240	842,240	839,680	837,120	844,800	837,120						5,043,200
ラフティングガイド料													
合計		291,200	291,200	291,200	291,200	291,200	291,200						1,747,200

■カヌー売上

販売単価

一人 2,182円/人

タンデム 3,364円/人

1日当たり販売可能組数

一人 5組（艇）

タンデム 4組（艇）

1組当たり人数

一人 1名

タンデム 2名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
販売可能組数													
合計		234	234	234	234	234	234						1,404
組稼働率													
合計		5.0%	5.0%	5.0%	5.0%	5.0%	5.0%						5.0%
販売組数													
合計		12	12	12	12	12	12						70
販売客数													
合計		17	17	17	17	17	17						101
カヌー売上													
合計		49,169	49,169	49,169	49,169	49,169	49,169						295,012

■ S U P 売上

販売単価

3,000円/人

1日当たり販売可能人数

8名

ガイド料

7,000円/回

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
販売可能客数													
合計				208	208	208							624
稼働率													
合計				45.0%	45.0%	45.0%							45.0%
販売客数													
合計				94	94	94							281
S U P 売上													
合計				280,800	280,800	280,800							842,400
SUPガイド料													
合計				163,800	163,800	163,800							491,400

■ 自転車売上

販売単価

500円/人

ツアー単価

10,000円/回

ガイド料

5,000円/回

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
販売客数													
合計	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60
ツアー回数													
合計	4	0	0	0	0	0	0	4	4	4	4	4	24
自転車売上													
合計	42,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	42,500	42,500	42,500	42,500	42,500	270,000
自転車ガイド料													
合計	20,000	0	0	0	0	0	0	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	120,000

■カフェ売上
販売単価
キャンプ客利用率
カフェ原価率

500円/人
30.0%
30.0%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
販売客数													
合計	62	99	19	59	61	101	76	64	24	16	14	23	617
カフェ売上													
合計	30,750	49,650	9,300	29,400	30,600	50,250	37,800	31,950	12,000	7,800	7,200	11,700	308,400
カフェ原価													
合計	9,225	14,895	2,790	8,820	9,180	15,075	11,340	9,585	3,600	2,340	2,160	3,510	92,520

■BBQ売上
販売単価
ラフティング、カヌー、SUP客利用率
BBQ原価率

3,500円/人
10.0%
30.0%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
販売客数													
合計	0	18	18	28	28	28	18	0	0	0	0	0	138
BBQ売上													
合計	0	64,155	64,155	96,915	96,915	96,915	64,155	0	0	0	0	0	483,210
BBQ原価													
合計	0	19,247	19,247	29,075	29,075	29,075	19,247	0	0	0	0	0	144,963

■物販売上
販売単価
キャンプ客利用率
物販原価率

500円/人
30.0%
30.0%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
販売客数													
合計	62	99	19	59	61	101	76	64	24	16	14	23	617
物販売上													
合計	30,750	49,650	9,300	29,400	30,600	50,250	37,800	31,950	12,000	7,800	7,200	11,700	308,400
物販原価													
合計	9,225	14,895	2,790	8,820	9,180	15,075	11,340	9,585	3,600	2,340	2,160	3,510	92,520

■全社の5カ年収支案は以下の通り。予約サイトの導入やレベニューマネジメントの実施、ニーズの高いアクティビティの提供等で売上増加を狙うが、設備投資が大きい分、営業赤字となってしまうている。経費に関してはそれほど大きいものはないため、ガイドの自前化や独自イベント等での集客増加による売り上げ増加等対策が必要である。

■全社 収支計画

科目	1年目		2年目		3年目		4年目		5年目	
	計画		計画		計画		計画		計画	
売上高 キャンプ場	1,679	18%	1,738	17%	1,799	16%	1,862	16%	1,927	15%
売上高 ラフティング	5,043	53%	5,598	54%	6,214	56%	6,897	58%	7,656	59%
売上高 カヌー	295	3%	295	3%	295	3%	295	2%	295	2%
売上高 自転車	270	3%	270	3%	270	2%	270	2%	270	2%
売上高 SUP	842	9%	872	8%	902	8%	934	8%	967	7%
売上高 カフェ	308	3%	319	3%	330	3%	342	3%	354	3%
売上高 BBQ	483	5%	527	5%	575	5%	629	5%	688	5%
売上高 シャワー	361	4%	373	4%	386	3%	400	3%	414	3%
売上高 レンタル・物販	308	3%	319	3%	330	3%	342	3%	354	3%
売上高 その他	0		0		0		0		0	
売上高	9,590	100%	10,311	100%	11,102	100%	11,971	100%	12,924	100%
期首棚卸高	0		0		0		0		0	
商品仕入高	0		0		0		0		0	
材料仕入高〔製〕	330	3%	350	3%	371	3%	394	3%	419	3%
期末棚卸高(△)	0		0		0		0		0	
売上原価	330	3%	350	3%	371	3%	394	3%	419	3%
売上総利益	9,260	97%	9,962	97%	10,732	97%	11,577	97%	12,506	97%
役員報酬	0		0		0		0		0	
給与手当	3,040	32%	3,192	31%	3,352	30%	3,519	29%	3,695	29%
賃金（ガイド）	2,359	25%	2,477	24%	2,600	23%	2,730	23%	2,867	22%
雑給	0		0		0		0		0	
法定福利費	304	3%	319	3%	335	3%	352	3%	370	3%
福利厚生費	0		0		0		0		0	
退職金	0		0		0		0		0	
人件費計	5,703	59%	5,981	58%	6,287	57%	6,601	55%	6,932	54%
委託金	0		0		0		0		0	
通信運搬費	240	3%	240	2%	240	2%	240	2%	240	2%
広告宣伝費	0		0		0		0		0	
販売促進費	40	0%	40	0%	40	0%	40	0%	40	0%
旅費交通費	0		0		0		0		0	
渉外費	24	0%	24	0%	24	0%	24	0%	24	0%
荷造運賃	0		0		0		0		0	
燃料費	240	3%	258	3%	278	3%	299	3%	323	3%
光熱水費	959	10%	1,031	10%	1,110	10%	1,197	10%	1,292	10%
消耗品費	575	6%	619	6%	666	6%	718	6%	775	6%
事務用消耗品費	0		0		0		0		0	
図書新聞費	0		0		0		0		0	
支払手数料	796	8%	856	8%	922	8%	994	8%	1,073	8%
研修費	193	2%	193	2%	193	2%	193	2%	193	1%
賃借料	0		0		0		0		0	
修繕費	100	1%	100	1%	100	1%	100	1%	100	1%
租税公課	9	0%	9	0%	9	0%	9	0%	9	0%
車両費	100	1%	100	1%	100	1%	100	1%	100	1%
保険料	608	6%	608	6%	608	5%	608	5%	608	5%
諸謝金	25	0%	25	0%	25	0%	25	0%	25	0%
支払会費	3	0%	3	0%	3	0%	3	0%	3	0%
会議費	2	0%	2	0%	2	0%	2	0%	2	0%
管理費	25	0%	25	0%	25	0%	25	0%	25	0%
減価償却費	7,339	77%	7,339	71%	7,339	66%	7,005	59%	7,005	54%
雑費	120	1%	120	1%	120	1%	120	1%	120	1%
販管費	17,100	178%	17,579	170%	18,090	163%	18,304	153%	18,890	146%
営業利益	▲7,840	-82%	▲7,617	-74%	▲7,359	-66%	▲6,727	-56%	▲6,385	-49%

リニューアル案（竹）の収支計画において、経営については前頁で述べた通りだが、設備投資分の負担の考え方について以下の3パターンで試算を行った。

（参考：R5年度の町の指定管理料：1,335,000円）

→今後の指定管理の検討としては、②の試算をもとに検討すれば自立経営も可能と考える。

①総事業費全額償却（圧縮会計なし）

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
売上	9,590,458	10,311,440	11,102,381	11,970,647	12,924,405
経費	17,430,150	17,928,249	18,461,065	18,698,116	19,309,197
（減価償却費）	7,338,672	7,338,667	7,338,667	7,005,333	7,005,333
利益	-7,839,692	-7,616,809	-7,358,684	-6,727,469	-6,384,792

②総事業費負担なし

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
売上	9,590,458	10,311,440	11,102,381	11,970,647	12,924,405
経費	10,091,478	10,589,583	11,122,398	11,692,783	12,303,864
（減価償却費）					
利益	-501,020	-278,142	-20,017	277,864	620,541

③総事業費の自己負担分（補助金等を活用し、自己負担25%で想定）を家賃として30年で支払い

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
売上	9,590,458	10,311,440	11,102,381	11,970,647	12,924,405
経費	10,091,478	10,589,583	11,122,398	11,692,783	12,303,864
家賃	793,167	793,167	793,167	793,167	793,167
利益	-1,294,187	-1,071,309	-813,184	-515,303	-172,625

★リニューアル案（竹）における経済波及効果は5ヶ年で129,426,480円の見込み
 ※県経済波及効果簡易分析ツールを利用して試算。改修費用は初年度のみ発生。直接・関節（1次、2次）まで含む。

<工事によるもの> ※竹案の直接工事費・共通仮設費を対象とし計算

◆前提条件		単位：円			
需要額	(A)	72,877,937			
需要転化率（家計）※		0.463574			
※ 需要転化率：雇用者所得のうち消費に回る率。県民経済計算と家計調査年報から求めています。					
◆生産誘発額・生産誘発倍率		単位：円			
		直接効果	間接一次効果	間接二次効果	合計
生産誘発額(B)		72,877,937	20,147,248	14,794,354	107,819,539
	うち粗付加価値誘発額	36,541,301	11,462,744	9,637,433	57,641,477
	うち所得誘発額	28,898,903	6,141,053	4,331,744	39,371,700
生産誘発倍率【生産誘発額（B）合計 / 需要額（A）】					1.48

<施設利用に伴うもの>
 ・1年目

◆前提条件		単位：円			
需要額	(A)	4,501,727			
	うち県内需要額	3,130,948			
需要転化率（家計）※		0.463574			
※ 需要転化率：雇用者所得のうち消費に回る率。県民経済計算と家計調査年報から求めています。					
◆生産誘発額・生産誘発倍率		単位：円			
		直接効果	間接一次効果	間接二次効果	合計
生産誘発額(B)		3,130,948	1,029,699	527,365	4,688,013
	うち粗付加価値誘発額	1,641,047	588,381	343,540	2,572,968
	うち所得誘発額	947,712	301,336	154,411	1,403,459
生産誘発倍率【生産誘発額（B）合計 / 需要額（A）】					1.04

・2年目

◆前提条件		単位：円			
需要額	(A)	2,794,531			
	うち県内需要額	2,626,952			
需要転化率（家計）※		0.463574			
※ 需要転化率：雇用者所得のうち消費に回る率。県民経済計算と家計調査年報から求めています。					
◆生産誘発額・生産誘発倍率		単位：円			
		直接効果	間接一次効果	間接二次効果	合計
生産誘発額(B)		2,626,952	885,702	423,026	3,935,680
	うち粗付加価値誘発額	1,368,966	500,192	275,570	2,144,729
	うち所得誘発額	745,733	256,191	123,861	1,125,785
生産誘発倍率【生産誘発額（B）合計 / 需要額（A）】					45 1.41

・3年目

◆前提条件		単位：円			
需要額（A）		2,938,059			
	うち県内需要額	2,765,824			
需要転化率（家計）※		0.463574			
※ 需要転化率：雇用者所得のうち消費に回る率。県民経済計算と家計調査年報から求めています。					
◆生産誘発額・生産誘発倍率				単位：円	
		直接効果	間接一次効果	間接二次効果	合計
生産誘発額(B)		2,765,824	932,617	445,306	4,143,747
	うち粗付加価値誘発額	1,441,302	526,663	290,084	2,258,049
	うち所得誘発額	784,944	269,749	130,384	1,185,078
生産誘発倍率【生産誘発額（B）合計 / 需要額（A）】					1.41

・5年目

◆前提条件		単位：円			
需要額（A）		3,208,341			
	うち県内需要額	3,022,141			
需要転化率（家計）※		0.463574			
※ 需要転化率：雇用者所得のうち消費に回る率。県民経済計算と家計調査年報から求めています。					
◆生産誘発額・生産誘発倍率				単位：円	
		直接効果	間接一次効果	間接二次効果	合計
生産誘発額(B)		3,022,141	1,019,089	486,534	4,527,764
	うち粗付加価値誘発額	1,574,855	575,483	316,941	2,467,280
	うち所得誘発額	857,587	294,754	142,456	1,294,797
生産誘発倍率【生産誘発額（B）合計 / 需要額（A）】				1.41	

・4年目

◆前提条件		単位：円			
需要額（A）		3,057,170			
	うち県内需要額	2,877,952			
需要転化率（家計）※		0.463574			
※ 需要転化率：雇用者所得のうち消費に回る率。県民経済計算と家計調査年報から求めています。					
◆生産誘発額・生産誘発倍率				単位：円	
		直接効果	間接一次効果	間接二次効果	合計
生産誘発額(B)		2,877,952	970,426	463,359	4,311,737
	うち粗付加価値誘発額	1,499,733	548,014	301,844	2,349,591
	うち所得誘発額	816,766	280,685	135,670	1,233,121
生産誘発倍率【生産誘発額（B）合計 / 需要額（A）】					1.41

五か年合計：129,426,480円

＜内訳＞

- ・ 建築：107,819,539円
- ・ 施設利用：21,606,941円

(5) 概算事業費と財源

本事業で活用が検討できそうな補助金などを調査した。実際の設計・施工等を行うタイミングで活用可能な制度等は随時調査し、担当課等と検討を行う。

・新しい地方経済・生活環境創生交付金（第2世代交付金）

第2世代交付金

【ソフト事業】

- 事業推進主体組成経費・事業構想・計画立案経費 等
 - 外部人材招聘経費、その他人材確保等関係経費 等
 - 試作・実証経費 等
 - 広報・PR経費、プロモーション経費 等
 - 市場調査経費 等
 - ソフト事業に関連する施設整備、事業設備・備品経費 等
- ※ 事業期間中のソフト事業経費の5割以内で計上可能

【拠点整備事業】

- 建築物の新築、増築、模様替え、改築
 - 建築物と不可分となっている機能を有する設備
 - 設備整備・備品、用地造成、外構工事、既存施設の除却・解体等
- ※ 地方債の対象とならない備品については、事業期間中の拠点整備事業経費の2割以内で計上可能

● 整備対象施設に関連するソフト事業

【インフラ整備事業】

- 従来の地方創生整備推進交付金の対象に限らず、幅広いインフラ整備を対象とする。

第2世代交付金における制度の概要②-2

採択の優先順位について

- 採択見込額を超える申請があった場合、**取組内容等に応じて採択の優先順位を付ける。**

対象事業	
優先順位	① 高
	➢ 重点テーマに該当する事業 ・「地方経済」、「生活環境」、「若者・女性にも選ばれる地方」 ⇒ 重点テーマに該当するかについては、外部有識者審査を実施
	➢ 複数の地方公共団体が連携して申請する事業（定住自立圏や連携中枢都市圏に基づく地域間連携を行う事業を含む） ➢ ソフト事業、拠点整備事業、インフラ整備事業のうち複数の種類の事業を組み合わせる事業 ➢ 他の国庫補助金等の関連する他政策・施策との戦略的な連携を図る事業
低	②
	➢ SDGs 未来都市計画に基づく事業 ➢ 弾力措置の対象となる事業 ➢ 特区制度に係る制度・規制改革を活用した、又は活用しようとする事業 ➢ 地域再生法に基づく支援措置との連携を図る事業やPFI法に基づく事業 ➢ スタートアップ支援に係る事業
	③
	➢ 上記以外の事業

※①の重点テーマに該当する事業のうち、②の内容にも該当する事業は、より優先して採択する。

(3) 交付上限額及び補助率

- 事業ごとに定めていた交付上限額について、**自治体ごとの交付上限額（ソフト・拠点整備・インフラ整備別）を設定。**

今後

（第2世代交付金（ソフト事業・拠点整備事業・インフラ整備事業）の新規事業及び継続・変更事業の合計）

	類型	交付上限額			補助率
		都道府県	中核中核都市	市区町村	
第2世代交付金	ソフト事業	・1団体当たり国費15億円/年度	・1団体当たり国費15億円/年度	・1団体当たり国費10億円/年度	1/2
	拠点整備事業	・1団体当たり国費15億円/年度 ・1事業当たり国費15億円	・1団体当たり国費15億円/年度 ・1事業当たり国費15億円	・1団体当たり国費10億円/年度 ・1事業当たり国費10億円	1/2
	インフラ整備事業	・1団体当たり事業計画期間中の総国費 50億円 (単年度目安10億円)	・1団体当たり事業計画期間中の総国費 20億円 (単年度目安4億円)	・1団体当たり事業計画期間中の総国費 10億円 (単年度目安2億円)	1/2等 ※各省市の交付要綱に従う

※ 拠点整備事業及びインフラ整備事業の各交付上限額は目安とする。 ※ 事業計画期間については9ページ参照。

(5) 事業計画期間

- タイプや型ごとに整理されていた事業計画期間について、以下のとおり見直し。

今後

	類型	事業計画期間
第2世代交付金	ソフト事業	原則3か年度以内（最長5か年度） ※ 4年目以降の事業期間の延長を申請する場合は、審査を実施（11ページを参照）。
	拠点整備事業	原則3か年度以内（最長5か年度）
	インフラ整備事業	原則5か年度以内（最長7か年度） ※ 事業計画期間については、事業の性質に応じて、事前にご相談ください。

・高知県地域観光振興交付金

- 目的**
 「外貨を稼ぐ」滞在型の観光地域づくりを推進するため。観光拠点の整備、周遊、滞在等の取り組みを総合的に支援。国の財政支援制度を活用し、事業を実施する市町村等に対し交付。
- 対象事業**
 高知県観光振興推進総合支援事業費補助金交付要綱に規定された事業。具体的には別表第1に掲げる事業が対象。
- 対象期間**
 交付金算定事業が完了した年度の翌年度から開始。原則1年だが、やむを得ない場合は最大5年間にわたり交付可能。
- 交付金額の算定対象経費**
 別表第1に記載の通り。

別表第1（第3条、第6条関係）

交付金算定事業	交付事業者	事業実施主体	交付金算定対象経費（注1）	交付金額（注2）（注3）	交付金算定対象事業費限度額
1 観光拠点整備事業	市町村、一部事務組合又は広域連合（以下「市町村等」という。）	市町村等	全国から観光客を呼ぶことのできる広域観光の核となる観光拠点（注4）の整備等に係る経費	ア 過疎対策事業債等の起債を活用する場合 交付金算定対象経費のうち、次の①から③までの部分に応じて算定した額の合計額（ただし、イに該当する場合を除く。）以内	1 交付金算定事業当たり 6億円 （ただし、要件（注5）を満たす場合は、1 交付金算定事業当たり12億円とする。）
2 観光資源磨き上げ事業	市町村等	市町村等又は市町村等の長が補助を行う団体（注6）若しくは個人事業者（注7）	既存の観光資源の磨き上げ、新たな観光資源の創出等に係る経費	① 過疎対策事業債を充当した部分 当該部分に18.0%を乗じて得た額	1 交付金算定事業当たり 1億円
3 自然景観等観光基盤整備事業	市町村等	市町村等又は市町村等の長が補助を行う団体（注6）	自然景観を生かした観光基盤の整備等に係る経費	② 辺地対策事業債を充当した部分 当該部分に12.0%を乗じて得た額	1 交付金算定事業当たり 1億円 （ただし、要件（注4）を満たす場合は、1 補助事業当たり6億円とする。）
4 二次交通周遊支援事業	市町村等	市町村等、市町村等の長が補助を行う団体（注6）又は広域観光組織	観光地の周遊性を高めるために必要な二次交通の運行又は運行支援に係る経費	③ ①及び②以外の部分 交付金算定対象経費から国の交付税措置額を差し引いた額に60%を乗じて得た額	1 交付金算定事業当たり 1,200万円
5 基本構想等作成支援事業	市町村等	市町村等又は市町村等の長が補助を行う団体（注6）若しくは個人事業者（注7）	観光拠点等の整備に関する専門的知見を踏まえた基本構想の作成（基本設計は除く。）又はアドバイザーの活用に係る経費	イ デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ又は地方創生拠点整備タイプ）を活用する場合 交付金算定対象経費に6分の1を乗じて得た額以内	1 交付金算定事業当たり 750万円
6 外国人観光客等受入環境整備事業	市町村等	市町村等又は市町村等の長が補助を行う団体（注6）若しくは個人事業者（注7）	外国人観光客等の受入環境の整備に係る経費（注8）		1 交付金算定事業当たり 100万円以上 400万円以下
7 観光資源創出ステップアップ事業	市町村等	市町村等又は市町村等の長が補助を行う団体（注6）若しくは個人事業者（注7）	観光客の増加を図る取組のうち、立ち上げ段階又は試行段階にある取組に係る経費		1 交付金算定事業当たり 20万円以上 400万円以下

・地域における受入環境整備促進事業（観光庁）

地域における受入環境整備促進事業

令和7年度要求額 1,440百万円
(前年度予算額 1,240百万円)



事業目的・背景・課題

- 我が国の各観光地における観光客の受入環境整備に当たっては、順調に増加するインバウンド旅行者を含めた観光客に対してストレスフリー・バリアフリーで快適な旅行を満喫してもらうための環境整備の側面と、観光地の住民の生活の質を確保しつつ、地域資源の保全・活用等を推進する側面の両面を、持続可能なあり方で追求することが重要。
- 本事業においては、全国の観光施設・公共交通機関等における受入環境整備の取組を支援するとともに、地域資源の保全・活用等に資する取組を集中的に支援。

事業内容

○持続可能な観光の促進に向けた受入環境整備促進

・オーバーツーリズムの未然防止・抑制や地域資源の保全・活用に向けた受入環境整備を支援

観光地における需要の適切な管理や、観光客向けのマナー啓発に向けた整備導入等を支援するほか、持続可能な観光推進に係る国際認証等を受けた地域における面的な設備導入や施設改修等を総合的に支援する

・交通サービスの受入環境整備を支援

入国から目的地までの移動を円滑に実施するための公共交通機関等における取組を支援する

※上記に加え、必要な調査・実証事業を実施

事業スキーム

- ・事業形態：直接補助事業 補助率：1/2、1/3等
- ・補助対象：地方公共団体、DMO、民間事業者等
- ・事業期間：平成28年度～

お問い合わせ先：観光庁 参事官(外客受入) 電話：03-5253-8972

事業イメージ

需要の適切な管理



入域料等徴収のためのシステム整備

需要の分散・平準化



観光スポットや周辺エリアの混雑状況の可視化・リアルタイム配信

受入環境の整備



バイオトイレの整備



パークアンドライドの整備

マナー啓発



マナー啓発のためのコンテンツ制作、看板・デジタルサイネージ等の整備



段差解消
(エレベーター)



UDタクシー

・地域観光魅力向上事業概要

1. 地域観光魅力向上事業概要

4

事業目的・背景・課題

- 三大都市圏への需要の偏在が深刻化。全国津々浦々に観光による経済効果を波及するためには、地域の多様な観光資源を生かした観光コンテンツの造成を更に進め、来訪目的の創出が必要。（国内外の観光客の地方誘客を促進するため、本事業では、インバウンドに限らず国内観光客の地方誘客に資する観光コンテンツの造成を行うことができます。）
- 個人手配化・オンライン手配化への急激な転換といったコロナ後の状況を踏まえ、観光コンテンツの造成だけでなく、適切な販路開拓や情報発信も含めた総合的な支援が必要。

事業内容

- 将来に亘って持続的に地方誘客が促進されるよう、地域資源を活用した収益性が高く独自性・新規性のある観光コンテンツの開発から、適切な販路開拓や情報発信の総合的な支援を行い、中長期に亘って販売可能なビジネスモデルづくりの支援を実施。

事業スキーム

- 事業形態：間接補助事業 400万円まで定額、400万円を超える部分については補助率 1/2
（補助上限：1,250万円、最低事業費：600万円）
- 補助対象：国→民間事業者（事務局）→地方公共団体、DMO、民間事業者等

3. 補助内容：補助対象経費

13

経費の項目	対象経費	経費額割合要件	
		販売型	新創出型
①観光資源を活用した観光コンテンツの造成に係る経費	● 観光コンテンツ、旅行商品、名産品等の企画開発 ● ワークショップ、協議会等の開催 ● 専門家からの意見聴取 ● ガイドの育成、観光イベントの実施 ● 観光戦略の策定 ● 地域事業者等に対するセミナーの開催 ● 造成した観光コンテンツに関するモニターツアーの開催 ● 効果測定に必要な調査 等	特になし	事業費の50%以上
②備品の購入・設備の導入に係る経費	● 観光コンテンツの造成等に必要となる備品の購入や設備の導入等（真に必要な不可欠なものに限る。）	特になし	特になし
③販路基盤整備・プロモーションに係る経費	● 造成した観光コンテンツを販売するために必要となる写真、動画、ホームページ等、対外的な情報発信のための素材やツールの作成 ● 造成した観光コンテンツの販路拡大を目的とした販路基盤整備・プロモーションに係る経費 ● 造成した観光コンテンツに関するファムトリップやインフルエンサーの招聘 ● 外部商談会への参加に係る旅費 等	特になし	特になし

・高知県観光振興推進総合支援事業費補助金（高知県）

「外貨を稼ぐ」滞在型の観光地域づくりを推進するため、観光拠点の整備、周遊、滞在等の取組を総合的に支援することを目的として、第3条に規定する補助事業者に対し、予算の範囲内で補助金を交付する。

別表第1（第3条関係）

補助事業	補助事業者	事業実施主体	補助対象経費 (注1)(注2)	補助率 (注3)	補助限度額
1 観光拠点 整備事業	市町村、一部事務組合又は広域連合（以下「市町村等」という。）	市町村等	全国から観光客を呼ぶことのできる広域観光の核となる観光拠点(注4)の整備に係る経費	2分の1以内	1 補助事業当たり 3億円 (ただし、要件(注5)を満たす場合は、1 補助事業当たり6億円とする。)
2 観光資源 磨き上げ 事業	市町村等	市町村等又は市町村等の長が補助を行う団体(注6)若しくは個人事業者(注7)	既存の観光資源の磨き上げ、新たな観光資源の創出等に係る経費	2分の1以内	1 補助事業当たり 5,000万円
3 自然景観 等観光基 盤整備事 業	市町村等	市町村等又は市町村等の長が補助を行う団体(注6)	自然景観を生かした観光基盤の整備に係る経費	2分の1以内	1 補助事業当たり 5,000万円 (ただし、要件(注4)を満たす場合は、1 補助事業当たり3億円とする。)
				3分の2以内	うち、上記に付随した周遊促進のための取組で、具体的な新たな経済効果を生み出すもの 2,000万円以下 (ただし、ハード整備部分は1,000万円を上限とする。)
4 二次交通 周遊支援 事業	市町村等又は広域観光組織	市町村等、市町村等の長が補助を行う団体(注6)又は広域観光組織	観光地の周遊性を高めるために必要な二次交通の運行又は運行支援に係る経費	3分の1以内	1 補助事業当たり 400万円
5 基本構想 等作成支 援事業	市町村等	市町村等又は市町村等の長が補助を行う団体(注6)若しくは個人事業者(注7)	事業戦略の作成に係る経費	定額	1 補助事業当たり 50万円
			観光拠点等の整備に関する専門的知見を踏まえた基本構想の作成（基本設計は除く。）又はアドバイザーの活用に係る経費	3分の2以内	1 補助事業当たり 500万円

- ・産業振興推進創造支援事業費補助金（高知県）

2 研究開発・商品開発支援(続き)



産業振興推進総合支援事業費補助金

対象者／中小企業者(個人事業者を含む)、
中小企業団体等

◆一般事業

補助内容

対象事業 地域アクションプラン等産業振興計画に位置付けられた取り組みであって、「市場調査」「商品・技術開発」「販路開拓・販売促進」「観光交流促進」「施設・設備等整備」等の事業

補助率 (ア)市町村等通常分 1/2以内
(イ)市町村等特別分 2/3以内
(ウ)企業等通常分 1/2以内

補助限度額 5,000万円(下限なし)



募集時期 いずれも随時

その他

活用いただく事業メニューによっては、市町村のコンセンサス、地域アクションプラン等産業振興計画への位置付け、外部審査会による審査等の手続きが必要な場合があります。

また、投資効果や主要原材料等の県内での調達割合等の要件を満たす必要があるものもあります。

詳しくは、補助金活用ガイド(産業政策課ホームページ)をご覧ください。か、産業政策課又は地域本部までご相談ください。

◆ステップアップ事業

補助内容

対象事業 地域アクションプランへの位置付けを目指そうとする初期段階の取り組みや、事業等の立ち上げ段階又は試行段階にある取り組みであって「市場調査」や「試作品づくり」等の事業(ソフト事業が中心)

※一定の要件を満たす場合は、申請段階で地域アクションプランへの位置付けがなくても支援が可能

補助率 (ア)トライアル分 2/3以内
(地域アクションプランへの位置付けを目指そうとする初期段階の取り組みと認められるもの)
(イ)通常分 1/2以内

補助限度額 (ア)トライアル分 上限50万円 下限10万円
(イ)通常分 上限200万円 下限10万円



高知県産業政策課(地域産業担当) TEL 088-823-9334 120801@ken.pref.kochi.lg.jp
又は地域本部(連絡先は裏表紙参照)

(6) 今後のスケジュール

- 今後のスケジュールは以下の通り想定。

	R6年度					R7年度												R8年度												R9年度															
	2024年					2025年												2026年												2027年												2028年			
実施項目	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
契約締結																																													
施設の耐震診断・老朽度調査																																													
建替整備規模調査																																													
運営・利用状況分析																																													
利用者調査・分析																																													
ターゲット設定																																													
基本構想の作成																																													
改修費用の算出																																													
次年度予算案の検討・提出																																													
今後の事業スケジュール ・整備後施設運営に関する検討																																													
成果物作成																																													
報告会																																													
納品																																													
<基本計画・基本設計>																																													
仕様書策定																																													
プロポーザル公募開始																																													
実施事業者決定																																													
計画・設計実施																																													
実施設計仕様書策定																																													
<実施設計>																																													
入札																																													
実施設計事業者決定																																													
実施設計実施																																													
施工仕様書策定																																													
施工入札																																													
施工業者決定																																													
施工																																													

概要

令和7年度...基本計画・基本設計 作成

令和8年度...実施設計 作成

令和9年度...整備工事